

全体講評 社会教育部門

制作者の思いとともに、苦勞と努力が感じられる作品が多かった。

地域や、地域にあるもの・文化をテーマにしたものが多く、後世に残したい歴史や郷土愛を育もうとする作品に、教材性の高さを感じた。また、楽しく面白い作品は視聴者を惹きつけ、続編を期待したくなるものもあった。

紙しばいの中には、特に優れた作品として数点が印象に残った。全体的に画力や技術が高くなってきていると感じる。一般の人でも高度な編集ができるようになり、ICTが日進月歩の今日において、紙しばいで表現することの意味と有効性を再確認することができた。制作にあたり、作品を視聴する対象を意識して物語の構成も工夫していることが感じられ、有効な活用を期待したい。サイズが大きな紙しばいは、見ごたえがあった。一方、終わり方が中途半端と感じられる作品もあったのは残念であった。

映像作品は、ほとんどが地域の祭りや伝承活動、伝統技術を残そうとするものであり、「伝え残すための映像」というイメージが強かった。地域教材、歴史教材として学校教育のなかでも十分活用できると思われる作品もあった。

映像機材が扱いやすくなってきているためか、個性的な作品が少なくなっているような気がする。テレビやインターネットの映像を手本にするのも良いが、自分たちにとって本当に必要な映像とは何かを、考え直す時期に来ているのかもしれない。伝統文化を後世に伝えるなど映像でしかできないことが多くあるはずである。漠然としたイメージによらず、個別のささいな出来事をていねいに積み上げていくことが大切であると強く感じる。